

## 日系社会実相調査：アルゼンチン（ARGENTINA）2018

対象国：アルゼンチン

調査方法：同国の日系団体に協力を要請し、首都やその郊外、地方都市等で日系人にヒヤリング調査した。質問票は 44 設問で構成され、日系人としてのルーツに関する質問から、学歴、職歴、日系団体への参加度、日本訪問歴、日本に対する関心度、日本文化などに関連する行事の実施意思と日本に対する要請、日本政府に対する要望やコメント等を盛り込んでいる。

調査実施期間：2018 年 7 月～8 月

調査票数：148 人

### アルゼンチン（Argentina）日系社会の実相



調査・ヒヤリングが実施された県

本調査は、日系人が集住しているブエノスアイレス市とその郊外の都市で行われ、そして地方の州では、北東部のミシオネス州と北部のチャコ州とトゥクマン州で行われた。

## (1) 調査結果の全体像

基礎データの部分（有効回答：148人）

表1 ARGENTINA 2018

	1 年齢	2 性別	3 世代	6 est.civil	7-パート ナー	8 子供	9 親族	10a-学歴	10b/c 日 本・他国	16 日系 人意識
<b>1-CABA</b> <b>54</b>	2: 32 3: 13 4: 7 nc: 1	H 25 M 28 nc 1	2: 9 3: 37 4: 6 nc: 2	46 6 - nc 1	9 11 nt33 nc1	1: 7 2: 45 1h:2 2h:2	1: 49 2: 1 ns:4	中高卒 2/3: 11 専門卒 4: 6 大卒 5: 36 院卒 6/7: 6 10: 2 11: 29	日本: 5 Jica 1, Mext1 他国: Bolivia 2	1: - 2: 3 3: 8 4:23 5:20
<b>2-La Plata, Varela, Burzaco (A.Brown)</b> <b>39</b>	2: 21 3: 4 4:13 nc: 1	H 19 M 19 nc 1	2: 18 3: 20 4: 1 nc: -	23 13 v1 d1 nc 1	15 1 23 -	1: 13 2: 26 1h:1 2h:6 3h:3 4h:1	39 - -	2/3: 12 4: 7 5: 20 6/7: - 11: 20	10: 6 8: Jica 4	- 1 6 13 19
<b>3-Merlo, Seibu (Morón)</b> <b>18</b>	2: 4 3: 11 4: 2 nc: 1	H 7 M 10 nc 1	2: 8 3: 10 4: - nc: -	11 7 - -	8 6 4 -	1: 9 2: 9 1h:2 2h:6	16 2 -	2/ 3: 5 5: 13 11: 16	8: 2 10: 3 県 費	1 2 1 5 9
<b>4-Escobar</b> <b>5</b>	2: 3 3: 1 4: 1 nc	H 1 M 4	2: 2 3: 2 4: 1 nc: -	3 2 - -	2 - 3 -	1: 2 2: 2 1h:1 2h:1 nc 1	4 - 1	4: 1 5: 4 11: 5	10: 4 UK 1 研修	- - 1 1 3
<b>5- Misiones, Posada</b> <b>20</b>	2: 4 3: 3 4: 13 nc	H 7 M 13	2: 11 3: 8 4: 1 nc: -	12 7 v1 -	6 8 6 -	1: 11 2: 9 1h:4 2h:6 5h:1	17 2 1	3: 7 4: 6 5: 7 7: 4 11: 13	8: 1 9: 1 10: 2	2 1 4 7 6
<b>6-Chaco, Tucumán</b> <b>12</b>	2: 4 3: 4 4: 4 nc	H 7 M 5	2: 2 3: 9 4: 1 nc: -	6 6 - -	1 8 3 -	1: 6 2: 6 1h:1 2h:5	9 2 1	3: 2 4: 1 5: 9 6/7: 5 11: 2	10: 1 Australia 研修	- - 1 4 7
<b>148</b>	2: 68 3: 37 4: 40 nc: 3	H: 66 M: 79 nc 3	2: 50 3: 86 4: 10 nc: 2	101 41 v2 d1 nc3	n 41 nn 34 nt 72 nc 1	1: 48 2: 97 nc: 3	134 7 7	2-3: 37 4: 21 5: 89 6/7: 15 nc 1	Jica:8 Mext:1 県費:15	

1-6: 調査実施の各州（順番に、1-CABA(54), 2-LA PLATA(39), 3-MERLO(18), 4-ESCOBAR(5), 5-MISIONES(20), 6-CHACO(12) 合計：148人

注) 1-CABA-Ciudad Autónoma de Buenos Aires 首都ブエノスアイレス自治都市, 2-LA PLATA、ラ・プラタ市（ブエノスアイレス州の州都、フロレンシオ・バレラ Florencio Varela、ブルサコ Burzaco（Almirante Brown 郡の町）も含む）、3-MERLO, SEIBU（Morón 市内の日系人団体）、4-ESCOBAR（ブエノスアイレス市郊外北部の日系人集住地区）、5-MISIONES, POSADA（ミシオネス州は北東部に位置、ポサーダは州都）、6-CHACO, Tucumán（両州とも北部地方の州）。2と3は、ブエノス郊外南部、南西部の郡、町である。

上の番号：1) 年代（20代、30代、40代、50代、未回答）、2) 性別（男女）、3) 日系世代（二世、三世、四世）、6) 1: 独身、2: 既婚、3: 寡婦夫、4: 別居、5: 離婚、7) パートナー関係（1: 日系人、2: 非日系人、3: いない、4: 未回答、5: 日本人・他の国籍）、8) 子供の有無（1: はい（この数）、2: いいえ、3: 未回答）、9) 日本の親族（1: はい、2: いいえ、3: 分からない）、10) 学歴、本国、日本及び他国（3: 中高卒、4: 専門学校卒、5: 大卒、6/7: 院、専門研修、8: JICA 研修、9: 文科省、10: 他の研修、11: 日本語教室、塾、学校）、16) アイデンティティ（1: 全く、2: 多少、3: まあまあ、4: かなり、5: とても）

アルゼンチンの調査対象者の基本データであるが（表1）、年齢別で見ると20代が68人（45%）、30代が37人（25%）、40代が40人（27%）、3人が未回答である。

性別では、66人（45%）が男性で、79人（53%）が女性である。

日系人として、50人が二世（34%）、86人が三世（58%）、10人が四世（7%）である。

そして、101人（68%）が独身、41人（28%）が既婚者、2人が寡婦・夫、1人が離婚経験者であるが、年齢層を問わずブエノスアイレス市（CABA）では独身者の比率が高い（85%）。偶然なのかそれともこれが一種の実態のサンプルなのか定かではないが、気になるデータである。ラ・プラタ市とその周辺でも59%が独身である。これに付随して、パートナーに関しては41人が日系人で、34人が非日系人であるが、いないと答えたのが48%の72人である。また、どのような夫婦関係（正規婚、同棲婚）であるかは別として、48人（32%）が子供がいると答えており、97人（65%）がいないと回答。ブエノスアイレス市では子供がいると回答したのは7人のみで45人（83%）がいないと回答。ラ・プラタ市やその周辺では13人を数え、世帯によっては子沢山である。日本に親族がいる日系人は多く、134人（90%）である。

表2 ARGENTINA 2018（表1のまとめ）

(1) 年齢層	20代：68人（45%）、30代：37人（25%）、40代：40人（27%） 未回答：3人
(2) 性別	男性：66人（45%） 女性：79人（53%） 未回答：3人
(3) 日系人世代別	二世：50人（34%）、三世：86人（58%）、四世：10人（7%） 未回答：2人
(6) 独身・既婚等	独身：101人 既婚者：41人 寡婦・夫：2人 離婚者：1人 未回答：3人
(8) 子供の数	はい：48人（32%） 1人：11人、2人：26人、3人：3人、4人：1人、5人：1人 いいえ：97人（65%） 未回答：3人
(9) 日本の親族の有無	はい：134人（90%） いいえ：7人（5%） 未回答：7人
(10) a-学歴（本国） b-c) 日本-他国	2-3 中高卒：37人（25%） 4 専門学校卒：21人（14%） 5 大卒：89人（60%） 6-7 院または専門研修：15人（10%） 未回答：1人 8 JICA研修：8人（5%） 9 文科省：1人 10 県費留学：15人（10%） イギリス留学：1人 オーストラリア留学：1人
(16) 日系人意識またはアイデンティティ	1-全くない：3人 2-少しはある：7人（5%） 3-まあまあ：21人（14%） 4-かなりある：53人（36%） 5-とてもある：64人（43%）

父方や母方の曾祖父母については、次の通りである。

どちらも、やはり沖縄が大多数である。アルゼンチンの日系社会の約7割近くは沖縄系で占められていると言われているが、この調査対象者でもその状況がかなり色濃く現れている。

エスコバルとミシオネス州以外は、沖縄出身がトップであり、続いて九州や中部地方、四国などが多いと言える。また、岩手、秋田、北海道もかなり存在する。現在、二世や三世による県人会運営も行われているが、アルゼンチンに関しては沖縄の各村人会をはじめ、それに次いで人数も多く活発なのは鹿児島県人会や茨城県人会、北海道県人会等であるようだ。父母や曾祖父母の出身県とのつながりや交流、留学生または研修生派遣を継続しているところもある。

表 3 ARGENTINA 2018 (設問 4、5)

	4) 父方曾祖父母出身都道府県 :	5) 母方曾祖父母出身都道府県
1-CABA 54	沖縄 29、徳島 3、千葉 2、秋田 2、鹿児島、熊本、和歌山、愛知、長崎、高知、宮城、佐賀、北海道、長野	沖縄 30、広島 4、高知 3、愛知 2、宮城、岐阜、北海道、滋賀、徳島、鹿児島
2-La Plata, Varela, Burzaco 39	沖縄 18、広島 4、熊本 3、長崎 2、長野 2、北海道 2、石川 2、鹿児島、高知、岩手、和歌山	沖縄 12、北海道 4、高知 5、熊本 2、神奈川 2、和歌山、徳島、千葉、長崎、鳥取、石川、秋田、静岡、岩手
3-Merlo, Seibu 18	沖縄 8、静岡 2、熊本、秋田、北海道、長崎、千葉、佐賀、秋田、岐阜	沖縄 8、秋田 2、福島、長崎、岩手、静岡、徳島、北海道、大阪
4-Escobar 5	福井 2、沖縄、東京、福島	茨城 2、沖縄、香川
5-Misiones, Posadas 20	広島 3、北海道 3、沖縄 2、静岡 2、鹿児島、愛媛、三重、佐賀、青森、島根	北海道 7、沖縄 3、山口 2、埼玉、福井、福岡、秋田、長崎
6-Chaco, Tucumán 12	沖縄 3、群馬 2、茨城、秋田、宮城、熊本、長野	沖縄 3、新潟 2、山梨、秋田、山口
<b>148</b>	未回答 : 11	未回答 : 18

## (2) 学歴と職歴、日本への関心と知識

### 1 0) 学歴

a) アルゼンチンでの教育 : この調査対象者に関しては、中高卒のみは全体の 25%で、専門学校卒が 14%、大卒が 60%である。大学院もしくは大卒後専門の研修を受けたものは 15 人で全体の 10%である。一般の統計でも同様だが、首都やその郊外の都市部では基本的に教育水準が高く、北部などは低くなる。その実態は少なからず日系人にも反映されていると思われる。

b)c) 日本及び他国での教育 : この調査対象者では、JICA の研修プログラムで来日したのが 8 人、文科省の奨学生としては 1 人のみである。また、県費留学生は 15 人であるがその多くが沖縄県の市町村交流事業で来日しているようだ。その他、1 人がイギリス、もう 1 人がオーストラリアに留学したとある。

1 1) 職歴 (複数回答) アルゼンチンでは、大卒であっても本業以外に副業することは例外ではなく、ときには副業が本業になったりする。また、これまで携わった「仕事」として回答しているものもいるので、みんなが副業しているとは限らない。ただ、現在のように経済情勢が悪化してくると所得があまり高くない職に就いている人はいくつかの副業を持つ傾向にある。

回答内容からすると、27 人が教員だが、大学教員が 2 人、小中高教諭が 3 人で、日本語講師が 6 人である。その他は詳細を明らかにしていない。また、26 人が事務員、17 人が商業分野、13 人がサービス部門 (通訳が 4 人、ドライバーが 1 人等)、12 人が工業及びエネルギー、10 人が通信・IT、同じく 10 人が飲

食業、9人がデザイン系、8人が医療やリハビリ関係、同じ8人が農業（内花卉栽培が7人）、7人が法律・会計・金融、同じく7人が行政官などである。

11b)日本での職歴：16人が日本で働いたと回答しており、そのうち13人が工場で、それぞれ1人が旅行会社、シェフ、そして地方自治体でJET Programmeに従事したとある。

11c)他国での職歴：キューバとコスタリカで飲食業に従事した3人、1人がメキシコで水産会社に、そしてもう1人がWebデザイナーとしてメキシコとアメリカで働いたとある。

表 4 Argentina 2018（設問 11a), 11b,11c, 12, 13, 14, 15)

設問番号	回答内容
11a)経歴、職歴	事務員:26 教育・講師:27 商業・営業:17 サービス各種:13 工学・エネルギー:12 飲食:10 通信・IT:10 デザイン系:9 農業:8 医療・リハビリ:8 行政官庁:7 法律・会計・金融:7 (複数回答、副業も含むとみられる)
11b) 日本 11c) 他国	日本:16 (工場労働:13、旅行会社:1、シェフ:1、JetProgramme:1) 他国:5 (飲食:3 (キューバ、コスタリカ)、水産会社:1 (メキシコ)、webデザイナー:1 (メキシコ及びアメリカ))
12) 日本での就労関心度	1-全くない:21人(14%) 2-少しはある:19人(13%) 3-まあまあ:42人(28%) 4-かなりある:45人(30%) 5-とてもある:18人(12%)
働きたい分野	デザイン、IT・システム・プログラミング、飲食・グルメ、写真・映画・芸術、服飾、建築関係、人事、工業部門、医療・健康、教育(幼稚園等、語学講師)、翻訳、出版、車産業、図書館、マーケティング、工場労働(食品加工等)、会計、法律、文化交流、花卉栽培と営業、エンジニア各分野、大学研究職 未回答:45
13) 日本の労働やビジネス慣行について	知っている:43(29%) 知らない:98(66%) 未回答:7 知っていること:5S カイゼン、時間厳守、階級関係、Just in time、勤勉さ、客に対するサービス向上、秩序、整理整頓、工場の製造プロセス(弁当製造)
14) 知っている日系企業名	トヨタ、ホンダ、日産などの自動車メーカー、パナソニック、富士通、象印、三菱などの家電メーカー、ユニクロ、資生堂、MUJI、ヤマハ、丸紅、伊藤忠、三井、住友、JTB、ローソン、セブンイレブン、グリコ、味の素、等々 未回答:51
15) 住んでみたい街(複数回答)	東京、那覇もしくは沖縄県内の街、横浜、広島、札幌、大阪、千葉、石川、厚木、長野、静岡、鹿児島、等々 未回答:33

## 1 2) 日本での就労関心度

- a) 1-「まったくない」21人(14%) 2-「少しある」19人(13%)  
3-「まあまあある」42人(28%) 4-「かなり関心がある」45人(30%)  
5-「すごくある」18人(12%) 「未回答」3人

4と5を合算すると63人になり、全体の48%になるが、今の経済情勢や雇用状況を反映しているのかも知れない(失業率10%, 2018)。

b) 関心がある分野(順位別): 製造業(食品加工、車関係)、健康と介護、飲食、デザイン、プログラミング・IT、服飾、建築、人事、教育(幼児教育)、翻訳、出版、マーケティング、図書館、会計、法律、文化交流、花卉栽培、エンジニア等。

複数回答もあり、未回答が45人である。

1 3) 日本の労働やビジネス慣習等についての知識の有無

1) はい、知っている：43人（29%） 2) いいえ、知らない：98人（66%）

未回答：7人

知っている内容として、時間厳守、5Sとカイゼン、社内の階級関係、Just in Time、勤勉、客へのサービス向上の精神などが挙げられている。

1 4) 知っている日系企業

ブエノスアイレス州のサラテ市・カンパナ市にトヨタ自動車の大きな工場があるため、また近年日産がコロドバ州に進出したこともあって、やはり自動車メーカーの名前がもっとも挙がっており、ホンダやスズキ自動車も入っている。商社の三菱や住友、丸紅、そしてアパレルのユニクロ、スポーツ用具のミズノ、化粧品の資生堂、家電のソニー、日立や東芝、カメラメーカーのミノルタ、キャノン、ニコン、オリンパス等である。 未回答：51

1 5) 住みたい日本の街または県

もっとも希望が多いのは東京で45人、その後沖縄（那覇市と明記しているのが4人）が26人、そして横浜市が12人によって挙げられている。後は、大阪、広島、熊本、札幌、岐阜、石川、京都、長野、高知などである。

1 6) 日系人としての自覚度またはアイデンティティー意識

日系人としての帰属意識すなわちアイデンティティーをどのように意識しているのかであるが、次の通りである。

1-全くない：3人 2-少しはある：7人（5%） 3-まあまあ：21人（14%）

4-かなりある：53人（36%） 5-とてもある：64人（43%）

4と5を合わせると79%（117人）がその意識で、かなり高いと言える。「全くない」と答えたのは、3人のみである。

(3) 日系社会とのつながり、非日系人の存在等

表5 ARGENTINA 2018（設問 17、18、19a）、22、23）

ARGENTINA 2018																													
	17-周囲に日系人の存在の有無 Si hay nikkei alrededor de su localidad							18-日系団体の有無 Si hay institución nikkei			19a-日系行事に参加 Participac. actividades nikkei						22-日系行事に非日系人の参加度 Particip. de no nikkei en actividades nikkei						23-日本に関心がある非日系人の友人・知人 Amistades no nikkei interesados en Japón						
	1)	2)	3)	4)	5)	n/c	1)	2)	n/c	1)	2)	3)	4)	5)	n/c	1)	2)	3)	4)	5)	n/c	1)	2)	3)	4)	5)	n/c		
1) CABA	54	-	5	13	18	17	1	50	3	1	2	6	14	20	12	-	1	5	14	20	13	1	-	5	15	23	10	-	
2) La Plata,	39	-	-	3	12	23	1	38	1	-	-	2	8	7	21	1	1	4	12	14	5	3	1	4	12	8	13	1	
3) Merlo	18	1	2	3	10	1	1	16	2	-	-	1	7	5	5	-	-	5	2	6	3	2	1	-	10	3	4	-	
4) Escobar	5	-	-	-	1	4	-	5	-	-	-	-	1	2	2	-	-	-	1	3	1	-	-	-	1	4	-	-	
5) Misiones	20	1	-	4	4	11	-	17	2	1	2	1	3	7	5	2	1	3	4	8	4	-	-	3	5	6	4	2	
6) Chaco	12	-	1	2	3	6	-	12	-	-	-	1	-	5	6	-	-	-	1	3	8	-	-	-	1	4	7	-	
Total	148	2	8	25	48	62	3	138	8	2	4	11	33	46	51	3	3	3	17	34	54	34	6	2	12	44	49	38	3

1 7) 居住地またはその周辺に日系人の存在の有無

ブエノスアイレス市内及びその郊外には多数の日系団体が存在し、また、各地で様々なイベントがあるため、かなりの頻度で日系人と会うことは可能である。首都は大きな街とはいえ、幾つかの主要団体や学校もあり、

ラ・プラタ市の郊外には日本人移住地や日系団体や日本語学校もいくつか存在する。そして北部のエスコバルは、日本人の花卉栽培や観葉植物生産で栄えた街だが、街で日系人と顔を合わすことは良くある。調査の結果、次の通りである。

- 1-「まったく見かけない」2人      2-「めったに見かけない」8人(5%)  
3-「時々みかける」25人(17%)      4-「よく見かける」48人(32%)  
5-「いつもみかける」62人(42%)      「未回答」3人

「良く見かける」と「いつもみかける」を含めると 110 人になり、それだけでも対象者の 74%を占める。それだけ、多くの日系人が日系社会との何らかの関わりをもっており、諸団体が実施するイベントなどに協力もしくは参加しているということである。

#### 1 8) 居住または活動地区に日系団体の存在の有無

- 1-「ある」138人(93%)      2-「ない」8人(5%)

前問とも関連しており、居住地や職場など比較的近くに日系団体が存在するということである。特にブエノスアイレス市内にはいくつもの団体や施設があるので、やはり直接的または間接的に関わりがあるということである。イベントも多いので、関わりやすいと言える。

#### 1 9) 日系人の行事やイベントへの参加度

- a) 1-「まったくない」4人      2-「めったにしか」11人  
3-「時々ある」33人(22%)      4-「よく参加する」46人(31%)  
5-「すごく参加する」51人(35%)      未回答: 3人

世代が進むことによって日本人会や日系団体での活動そのものは低下しており、会員になって会費を収める日系人は非常に少ない(皆無かも知れない)。しかし、関心を持てるイベントや日本文化に関する教室などがあれば参加するというスタンスである。この調査でも見られるように、「よく参加する」と「すごく参加する」を含むと 97 人で全体の 66%を占める。大きなバザーや日本祭り、盆踊りなどは集客力が大きいので、たくさんの日系人が企画に参加している。また、市内の日亜学院文化センターの Nippo Mania や沖連 COA のフェスティバル、そしてラ・プラタ郊外の「お盆祭り」にはこれまでとない参加者で賑わう。出席者の多くは日本文化に関心がある地元や周辺地域の「非日系人」である。

b) どの団体で活動しているのかという質問には、もっとも多かったのが、CNA-Centro Nikkei Argentino (二世や三世を中心に若手中堅のアルゼンチン日系センター)、DALE (日系センターの青少年サークルで毎年合宿を企画して、新しいリーダーを発掘・育てる制度)、CeUAN-Centro Universitario Argentina Japón (日亜大学生センター)、COA-Centro Okinawense en la Argentina (沖連)、日亜学院 (バイリンガル学校だが、ほとんどの生徒は地元非日系人やアジア系である) とそれに付随している日亜文化センター、Jardín Japonés (市内パレルモ地区の日本庭園であり、財団法人として日本文化発信の重要拠点である)、ANULP-Asociación Nipona Universitaria La Plata (ラ・プラタの日系大学生団体)、そして県人会や各地の日本人会、日本語学校があるが、沖縄県出身者の子孫は今も村人会などにも所属しているようだ。      未回答: 45人(30%)

c) 日系団体に参加しない理由については、「時間がない」が 13 人、「関心がないまたは日系人としての帰属意識もない」が 5 人、「情報が少ない」が 2 人だが、128 人(86%) が未回答である。

## 20) 日系団体での幹部職の有無

日系団体でなんらかの幹部職についていると答えた日系人は 46 人 (31%) で、残りは参加していてもそのような責任はないとされる。一部の回答者は、どの団体でそのような役割を担っているのかを明記しており、もっとも多いのが CNA (アルゼンチン日系センター)、CeUAN (日系大学生団体)、日亜学院、ANULP (ラ・プラタの大学生団体)、COA であるが、その他県人会や、ラ・プラタなど各地の日本人会でも役員である。複数の団体でそうした役職についている日系人も当然ながらいる。

## 21) 日本大使館が促進している事業を把握しているか否か

「はい」67 人 (45%)、「いいえ」81 人 (55%)

その評価に関して：「あまり面白くない」3 人 「なかなか面白い」29 人 (20%)

「とても面白い (興味が持てる)」32 人 (22%)

これまで大使館やブエノスアイレスの日系団体との交流がなかったチャコ州やトゥクマン州の日系団体からの評価がとても高いと言える。近年の JICA や大使館の地方への出張や情報発信の成果である。

SNS を通じて連絡網や情報共有も進んでいるが、やはりフェイス to フェイスの関係を築くことが重要であり、日本から戻った JICA 研修員を動員して地方で説明会を行ったり、ブエノスアイレスの日系団体や業者が地方行事に参加することで、人とのつながりが深まっている。

## 22) 地元または地域の日系行事に、非日系人の参加があるのか否か

1-「まったくない」4 人 2-「めったにしかない」17 人 (1-を含むと 13%)

3-「時々ある」34 人 (23%) 4-「よくある」54 人 (36%)

5-「ほぼいつも」34 人 (23%) 未回答：6 人

4と5を合算すると約 60%が日系社会の行事に非日系人が参加していると回答しており、ここ十数年前からその傾向は増加している。以前は、多くの日系団体や日本語学校では日系人のみというのが原則だったが、次第に地元の非日系人にも開放されるようになり、現在は多くのイベントに非日系人が多く参加し、そのおかげで諸団体の財政が安定している側面も否定できない。出店している店も以前は副業的にやっていたのだが、今やそれが専業になって各地のイベントに出店し、日系社会の行事でなくても声がかかるようになってきている。

## 23) 日本のことに関心がある非日系人の友人・知人がいるか否か

1-「まったくない」2 人 2-「めったにしかない」12 人 (9%)

3-「時々いる」44 人 (30%) 4-「よくいる」49 人 (33%)

5-「いつもいる」38 人 (26%) 未回答：3 人

前問と関連してほぼ同じ結果であるが、今後もこうした非日系人の増加が日系イベントを盛り上げていくに違いない。

## 24) 非日系団体への加入の有無

1-「はい」7 人 (5%) 2-「いいえ」139 人 (94%) 3-「未回答」2 人

このような諸団体にはほとんどが加入しておらず、加入していると答えた団体はコーラスやスポーツクラブが多い。



25) 業界団体、職業上の協会や商工会への加入の有無

1-「はい」13人(9%) 2-「いいえ」133人(90%) 3-「未回答」2人

気になるところではあるが、本来であればもっと所属もしくは関連の業界団体に加入していてもいいのだが、13人の加入内容を見る限り、ソムリエ協会、教員組合、医師会、商工会、公認翻訳協会、そして数人が業界団体に加入している。

26) 地域でのボランティア活動参加の有無

1-「はい」10人(7%) 2-「いいえ」135人(91%) 3-「未回答」3人

地域のボランティア活動でも参加率が非常に低い。回答者は、施設の維持、貧困地区での教員ボランティア(学童や学習サポート)、高齢者支援などを挙げている。

**(4) 日本との繋がり、交流、渡航もしくは訪問、そして評価等**

表6 Argentina 2018 (設問 27a)-b)、28、29、30)

27a)日本訪問の有無、27b)日本訪問回数(1:1~2回、2:3~5回、3:6回以上)、28)日本渡航・滞在目的(1:パッケージ(旅行)、2:親族訪問、3:留学、4:研修、5:就労)、6:同時に二つの目的、7:3つ以上の目的)、29)滞在期間(1:1ヶ月未満、2:1~3ヶ月、3:3~6ヶ月、4:6~12ヶ月、5:1~3年、6:3~6年、7:6年以上)8:複数回、30)日本に対するイメージ・評価(1:とてもマイナス、2:マイナス、3:中立、4:プラス(高い)、5:とても高い)。

27) 日本渡航(旅行、親族訪問、留学、研修、就労)の有無

a) 1-「はい」92人(62%) 2-「いいえ」55人(37%) 3-「未回答」1人

調査対象者の6割以上が来日しており、ブエノスアイレス市が36人、ラ・プラタ及びその周辺は26人、メルロと西部が11人、エスコバルは全員の5人、ミシオネス州14人、そしてチャコ州とトゥクマン州からはまだ誰も来日経験がない。日本での研修または留学機会などの情報があまり届かなかった地方は、渡航するチャンスがなかったと言える。

(27a) 日本渡航	はい: 92 (62%) 1-CABA: 36 2-La Plata: 26 3-Merlo:11 4-Escobar: 5 5-Misiones:14 6-Chaco: 0 いいえ: 55 (37%) 未回答: 1
(27b) 日本渡航回数	1~2回: 70 (48%) 3~5回:20 (13%) 6回以上: 1 一度も:57 (38%) 6-地域以外は平均38%が来日、6は一度も。首都や郊外の日系人はかなりの割合で来日。
(28) 日本滞在目的	1「旅行」:30 2「親族訪問」:38 3「留学」:19 4「研修」:18 5「就労」:27 渡航者:92人(内32人は複数回答) 未回答: 44 (30%)
(29) 日本滞在期間	1-「一ヶ月未満」:25 2-「1~3ヶ月」:33 3-「3~6ヶ月」:2 4-「6~12ヶ月」:9 5-「1~3年」: 9 6-「4~6年」: 8 7-「7年以上」5 渡航者:92人
(30) 日本に対するイメージ・評価	「とてもマイナス」3 「中立」12 (8%) 「プラス(高い)」68 (46%) 「とても高い」60 (40%) 未回答: 3

b) 48%が1~2回日本を訪れており、13%が3~5回である。北部のチャコ州等以外は、平均で38%が来日しており、首都ブエノスアイレスやその郊外の日系人はもっと高い割合で日本を訪れている。

28) 渡航・滞在目的 (複数回答)

- 1-「旅行」30人    2-「親族訪問」38人    3-「留学」19人  
 4-「研修」18人    5-「就労」27人    渡航者：92人 (内32人は複数回答)

全体の62%が日本に渡航しているが、旅行で30人、親族訪問38人、留学19人、研修18人、就労27人になるが、中には研修で来日した際初めて親族を訪問したり、観光名所を旅行した日系人もいることで、32人が複数回答である。

29) 日本渡航での滞在期間

- 1-「1ヶ月未満」25人    2-「1~3ヶ月」33人    3-「3~6ヶ月」2人  
 4-「6~12ヶ月」9人    5-「1~3年」9人    6-「4~6年」8人  
 7-「7年以上」5人

3ヶ月未満だけで全体の40%を占め、中長期は留学か就労による滞在である。

30) 日本に対するイメージ (評価)

- 1-「とてもマイナス」3人    2-「マイナス」10人    3-「中立」12人 (8%)  
 4-「プラス (高い)」68人 (46%)    5-「とても高い」60人 (40%)    「未回答」3人

86%が高いまたはとても高い評価をしており、日本に対する期待と日系人の存在が両国間の連携強化にも活用できることが伺える。ただ、アルゼンチンの場合、3人が「とてもマイナス」という回答もある。

31) 日本のことで好きなこと、もっと知りたいこと (複数回答)

a) 「日本の好きなこと」に関しては、集計による順位は次の通りである。

- 1位「4-食 (和食)」118点  
 2位「10-清掃と秩序」101点  
 3位「9-組織力と規律」97点  
 4位「11-チームワーク」92点  
 5位「8-時間厳守」88点  
 6位「2-伝統文化 (舞踊、盆栽、陶器、折り紙、茶道、能、歌舞伎) 82点  
 「12-治安と安全 (市民マナー)」82点  
 7位「13-公共交通機関」72点  
 8位「1-ポップカルチャー (漫画、アニメ、コスプレ、J-Pop) 64点  
 9位「7-技術・ロボット工学」63点  
 10位「3-映画・文学」46点  
 11位「6-スポーツ (野球等)」42点  
 12位「5-武術・武道」40点

表7 Argentina 2018 31a),b)

	31a) 日本の好きなこと													31b) 日本のもっと知りたいこと												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1)CABA 54	26	32	25	48	14	15	23	33	35	38	30	33	28	11	23	17	14	13	15	20	7	15	8	14	11	12
2)La Plata 39	16	15	9	31	12	14	16	22	24	25	24	21	18	9	18	9	11	9	12	19	6	12	10	11	14	14
3)Merlo 18	5	10	3	12	3	5	7	10	11	10	11	8	8	3	7	5	5	2	2	5	1	4	1	1	2	2
4)Escobar 5	4	3	-	4	2	1	1	4	5	5	5	5	3	1	2	1	1	-	1	2	1	2	1	3	1	-
5)Misiones 20	7	13	5	14	3	3	10	13	12	14	13	11	12	3	7	3	4	5	3	10	3	4	3	3	6	5
6)Chaco 12	6	9	4	9	6	4	6	6	10	9	9	4	3	5	8	4	5	4	4	6	3	5	5	5	6	5
Total	64	82	46	118	40	42	63	88	97	101	92	82	72	32	65	38	40	31	37	62	21	42	28	37	40	38
	8°	6°	10°	1°	12°	11°	9°	5°	3°	2°	4°	6°	7°	7°	1°	5°	4°	6°	6°	2°	10°	3°	9°	6°	4°	5°

b) 「日本のことでもっと知りたいこと」に関しては、1 位「伝統文化」、2 位「技術・ロボット」、3 位「組織力と規律」、4 位「食（和食）」と「治安と安全（市民マナー）」、5 位「映画・文学」と「公共交通機関」、6 位「スポーツ（野球等）」と「チームワーク」、7 位「ポップカルチャー」、8 位「武術・武道」、9 位「清掃と秩序」、10 位「時間厳守」、という順である。

a)と順位は異なるが、こうした回答を参考に今後の活動企画に活かせる可能性は高い。

### 3 2) 上記の「日本のことについてどのように知ったのか」（複数回答）

回答の内容をまとめると、次の通りである。

- (1) 家族や親戚、友人：65 点（内友人が 14 点） 44%
- (2) ネット、SNS 37 点 映画、TV(NHK) 16 点 53 点 36%
- (3) 日本訪問 旅行 31 点 留学等 7 点 就労 7 点 45 点 30%
- (4) 日系団体、日系の行事、日亜学院や他の日本語学校 20 点 14%
- (5) 本、雑誌 12 点 8%

日系コミュニティが存在していることを物語っている内容であり、家族や親戚、友人・知人とそれらとの SNS での繋がりが日本を知るきっかけになっているようだ。また、テレビに関しては NHK の国際放送を契約している日系世帯も多いので、日本語があまりわからない日系人でも特定の番組は見ているようだ。また、日本を訪問した日系人がかなり多いということもプラスに影響している。日本に対する関心さえあれば、近くに様々なツールと機会があり、日本のことをもっと知ることができる環境にある。

### 3 3) 「まったく関心がないのなら、その理由について」

一切コメントがなかった。

3 4) 日本の好まないこと	ポイント	順位
1) 多少閉鎖的な社会である	63pt	1 位
2) あまりにも規則などが厳しく、柔軟でない	41pt	6 位
3) 人間関係に冷たいと感じる	62pt	2 位
4) 感情を表さない（表現が貧しい）	50pt	5 位
5) 細かいことにこだわる	8pt	8 位
6) 英語を話す人が少ない	29pt	7 位
7) 外国人に対して時々差別的な態度をとる	58pt	3 位
8) 日系人のことをあまり、又はまったく知らない	51pt	4 位
未回答	28pt	

### 3 4) 「日本の好まないこと」（複数回答、未回答:21 人）

各位の日本での体験や祖父母や友人・知人等からの証言に基づいた見解として、1 位の「多少閉鎖的な社会である」と 2 位の「人間関係に冷たいと感じる」というのが上位にきており、その次に「外国人に対して時々差別的な態度をとる」が挙げられている。

4 位が「日系人のことをあまり、またはまったく知らない」、5 位は「感情を表さない」、6 位「あまりにも規則などが厳しく、柔軟ではない」、7 位「英語を話す人が少ない」、そして 8 位が「細かいことにこだわる」である。

35) この設問は、34) に対するコメントであり、主なものは次の通りである。

22 人 (15%) のみが回答し、126 人 (85%) が未回答である。37 問で述べた方がいいコメントもあり、その部分は精査することにした。( ) 内はコメント者数。一部回答者が複数コメント。)

1-マイナスの部分も議論の余地があり、日本社会でどのように機能しているのかもっと知る必要がある。文化的な違いも考慮すべきである。日本人にとってマイナスなのかは分からないが、でも改善の余地はあるはずだ。(5)

2-日本の労働市場はかなり過酷なところもあり、男尊女卑的要素もある。自殺者が多い。(2)

3-日本社会では、世代間コミュニケーションも普通の付き合いも少ない。家族関係はとても伝統的である。(2)

4-日本はクリエイティブ産業をもっと活用しそれを輸出すべきである。それが国際理解につながる。(3)

5-若者は大学進学の際、準備不足で選択の幅を狭めている。若者が中南米の大学にも来て欲しいが、日系人の大卒資格を日本でも認め、活用できるようにして欲しい。(3)

6-日系人は二つの文化をもっているが、その特徴をもっと日本でも活用できると思う。日本は、アルゼンチンや南米のことをあまり知らない。学校間の協定で、生徒や教員の交流を促進したい。(5)

7-日系人は外国人扱いだが、いかなる外国人にもっと寛容的であって欲しい。日系四世になると日本人の名字を失うこともあるが、それだけで研修申し込みができないのは差別的で不公平である。(3)

8-クジラやイルカの捕獲をやめてほしい。(2)

表 8 Argentina 2018 (設問 34、36)

	34) 日本の好まないこと										36) 地元でやりたいこと												
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	nc	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	nc
1)CABA 54	28	18	28	25	1	18	23	19	6	25	26	13	22	21	24	9	21	13	34	35	24	18	5
2)La Plata 39	16	11	15	14	3	6	14	11	6	15	11	7	21	11	14	9	9	8	28	24	16	14	2
3)Merlo 18	5	5	4	4	4	4	7	9	5	9	6	5	7	3	1	1	4	1	8	11	8	7	3
4)Escobar 5	4	1	3	2	-	-	3	3	-	3	1	3	3	2	2	-	-	4	3	3	2	-	-
5)Misiones 20	8	5	6	2	-	1	8	6	8	10	10	2	13	5	5	2	3	2	11	10	9	4	2
6)Chaco 12	2	1	6	3	-	-	3	3	3	9	5	6	10	6	9	4	2	4	6	4	5	3	1
Total	63	41	62	50	8	29	58	51	28	71	59	36	76	48	55	25	39	32	90	87	64	46	13
	1°	6°	2°	5°	8°	7°	3°	4°		4°	6°	11°	3°	8°	7°	13°	10°	12°	1°	2°	5°	9°	

36) どのような行事、イベント等をあなたの地元で実施したいと思うか (複数回答)

複数回答であるが、点数の順位では :

- 1 位) 日本の若者との交流促進 (90 点)
- 2 位) 日本での研修プログラムのもと積極的な広報 (87 点)
- 3 位) 和食料理教室 (76 点)
- 4 位) 日本文化のワークショップ (71 点)
- 5 位) 日本と共同の文化交流事業の企画と実施 (コンサート等) (64 点)
- 6 位) 日本語の体系的講義 (59 点)
- 7 位) 日本の芸術・写真展 (55 点)
- 8 位) 日本史の講義・講座 (48 点)

- 9 位) 日本人を迎えるためのホームステイ (46 点)
- 10 位) 邦画上映企画 (39 点)
- 11 位) 実用日本語教室 (漫画理解等) (36 点)
- 12 位) スペイン語翻訳ワークショップ (文学、経済、漫画等) (32 点)
- 13 位) J-Pop コンサート (25 点) 未回答 : 13 人

## (5) 日本や日系団体に対する要望やコメント

37) この設問は、36) 問に対するコメントであり、下記が主なコメントである。

ここでも未回答率がかかなり高く、136 人 (92%) である。

12 人のコメントを、次のように要約する。

1-ブエノスアイレス市内だけでなく、地方でも様々なイベントを開催、実施して欲しい。

2-日本文化や日系アイデンティティーに関する事業を企画し、交流を深めて世代間ギャップを修復し、次世代につなげていきたい。

3-もっと日本から JICA のボランティアが地方の日系社会にも来て、日本文化のことをもっと教えて欲しい。そして一緒に事業を行いたい。それを、もっと日系人同士で共有したい。

4-アルゼンチン政府に対して、日本の教育制度の良い部分、アイデアを提供してもらいたい。日本の中高学校との交流を促進したい (日本の若者に来て欲しい) 。

5-邦画祭を企画し、日系の映画関係者を招待して交流を図りたい。

### 38) 日本語力と英語力

会話力、読解力、文書力について、対象者達の自己申告でどれぐらい理解できるのか答えている (%) 。

(121 人 (82%) 回答、27 人未回答) :

	会話力	読解力	文書力
100-80%	17 人	6 人	6 人
79-50%	18 人	18 人	17 人
50%未満	63 人	74 人	75 人

この中には、日本語能力試験を受けているものが 45 人存在し、内訳は N1:10 人、N2:8 人、N3:12 人、N4:11 人、そして N5: 4 人である。

日本語力がかかなり高く、コミュニケーションがとれるだけでなく文書の読み書きもできる日系人は全体の 1 割前後であるが、チャコ州とトゥクマン州以外には、N1 と N2 保持者が存在することが把握できた。

英語に関しては、100-80%と回答した人が 30 人、79-50%が 51 人、50%未満が 24 人であり、105 人 (70%) が回答した。

### 39) 日本語がわからない理由 (複数回答、未回答:117 人 (79%) )

回答者 31 人の回答をまとめると、次の通りである。

- 1) 関心がなかった、または低かった : 11 人
- 2) 時間がなかった : 10 人
- 3) 学習する学校が近くなかった : 4 人

4) 英語を優先した：3人

少し勉強したが、使う機会がなかった：3人

40) その他、日本政府に対するコメント、助言、要望等（未回答者 113 人（76%））

回答者 35 人の主なコメントを要約したものである。

- 1-研修（JICA）プログラムにもっと別の専門分野にも拡大し、さらにもっと多くの日系人にチャンスを与えて欲しい。
- 2-日本語学校に日本の学習教材をもっと提供してほしい（教科書、DVDs）。
- 3-日本の若者が奨学金でもっと中南米に来て欲しい。
- 4-ブエノスアイレスだけが日本と直接コンタクトをとっているが、地方もそうできるようにしてほしい。また、日系団体に対して日本政府の経済支援を求めたい。日系の中小企業にも融資を。
- 5-日本国籍の取得要件の緩和を検討してもらいたい。
- 6-沖縄の米軍基地問題に対応し、撤収して欲しい。

41) 日系団体に対するコメント、助言、要望等（未回答者 132 人（89%））

回答者は 16 人で、その主なコメントを要約したものである。

- 1-もっとコミュニケーションをとり、団体間の連携を強化するとともに排他的な関係にならないようすべきである。もっと互いに協力して欲しい。そして、もっと若い世代が参加できるようにしなくてはならない。
- 2-もっと有効な広報活動をしてイベントや行事の開催を知ってもらう必要がある。
- 3-日本の良い部分とアルゼンチンの良いところを上手くアレンジして運営して欲しい。
- 4-日本語教室がもっとリーズナブルになって欲しい。
- 5-日系社会のために老人ホームをつくって欲しい。

42) 日本国外務省または日本国大使館のウェブサイト閲覧の有無

「はい」:46 人（31%） 「いいえ」:73 人（49%） 未回答:29 人（20%）

43) 日系人に対する日本の政策や事業をどのように知っているのか

複数回答もあり（未回答:59 人（40%）、これらのカテゴリーに分けると：

- a) インターネット、SNS 等：48 人（32%）
- b) 大使館、JICA：4 人（3%）
- c) 日系団体：13 人（9%）
- d) 親や親族：5 人（3%） 友人・知人：13 人（9%）
- e) 知らない：15 人（10%）

ネットや SNS と回答したものは、大使館や JICA のフェイスブックも見ていると推察される。また、日本での研修から帰ってきた日系人の話が SNS 等で紹介され、そこで知った情報も含まれているようだ。

44) 2018 年 7 月から施行された「四世ビザ」についてどう思うか。

回答者が 97 人（66%）、未回答者は 51 人（34%）である。

73 人が「賛成」、「素晴らしい」、「関心がある」、「日系の若者にとって良い機会」といったある程度ポジティブな評価、「知らない」が 21 人、その他、最近知った、対象年齢が低いといったコメントがあった。

## (6) 結論

1-アルゼンチンで行われた調査は、ブエノスアイレス市とその周辺の郊外都市がメインである。実際これらの地域に集住しているのだが、しかし地方のロサリオ市、コロドバ市、サンタフェ市、メンドサ市にも日系社会は存在する。また、近年の SNS の発達でこれまであまり把握されていなかった地域の日系人ともつながるようになり、小さな日系人コミュニティ（数世帯、十数世帯）と関わることができるようになった。JICA 研修員 OB 会と JICA 事務所の積極的な日本での研修プログラムの報告会と広報によって、地方からの応募者も増えつつある。大使館も様々なイベントに顔を出しているためその存在を示しており、また、ブエノスアイレスの日系団体や若手グループ、日系実業家（飲食関係）が地方のイベントにも参加するようになったことで、もっと近い存在になってきている。こうしたプレゼンスが地方の日系コミュニティにいい刺激を与えており、活性化に貢献している。

2-同じブエノスアイレス郊外でも、ラ・プラタを中心に周辺にはいくつかの日本人移住地がある。他方、西部や北部にもある。日本とは季節が反対ということもあり、有名なラ・プラタ盆踊りは 1 月に毎年開催されており、1 万 7 千人を動員している。その他の日本フェスティバルやバザー、文化事業も以前とは比較にならないほど参加者が多いが、それはクールジャパン関連の文化的表現に関心を持っている非日系人のおかげでもある。

非日系人の今後の日系団体での役割や役員としての選任が一つの課題になりそうだ。JICA 日系研修員としても、これまで尽力してくれている婦人部のメンバーや日本語教師が今後日系人とともに研修を受ける機会も増えてくることが予想される。

3-ここ 20 年、いかなる経済情勢であっても確実に様々な目的で来日する日系人が増えている。以前の就労目的だけではなく、旅行、研修・留学などであり、その際親族訪問も果たしている。ルーツ探しが以前より容易であり、日本語力は高くなくとも日系人としての帰属意識は比較的高い。日本に対する関心も高く、その文化的表現が自分たちの団体や活動に上手くマッチングするとあればなおさら興味を抱く。和食関係が代表的である。アルゼンチン社会に対してアピールしやすいのと、現地の和食ブームにもうまく便乗できるからだ。

4-ただ日本に対する知識はまだ十分とは言えず、ネットなどで入手できてもそれをきちんと現地にフィードバックできるだけのスキルを持った人は少ない。日本文化関連の知識はやはりきちんと日本語で学ぶ必要があるし、数ヶ月の研修だけでは十分とは言えない。中長期の留学かその分野の修業が必要になる。また、留学や研修で学んだ日系人との連携強化も重要であり、そうした人材をもっと有効に活用する余地はある。

5-若い世代、次世代の日本への関心は以前とは異なり、そのニーズやアプローチの切り口にも変化が見られる。また、かなり豊かになったこともあって日本に家族旅行することもそうめずらしいものではない。しかし、日本的価値の認識や知識は不十分で、それを自分の社会に活かすのはそう容易いことではない。また、社会の数々の課題に対しても自覚を高めるにはもっとコミットメントしなくてはならない。本調査では、地域社会でのボランティア活動の割合が低かった点が、少し気になる数値である。そして、日本との連携や協力関係は、一部の日系人が日本通になることでその可能性が広がり、日本はこれからも日系人の研修や留学の継続で良い 2 カ国間人材を築いていくことに期待したい。

最後に、本報告書に記載した見解は、本件分析者によるものであり、日本政府の見解や立場を反映したのではないことを付記する。

Argentina 地図



Buenos Aires 州地



首都とその郊外（首都圏）



首都圏の自治体

